

## 日本の火山活動概況（2013年1月～2月）

気 象 庁

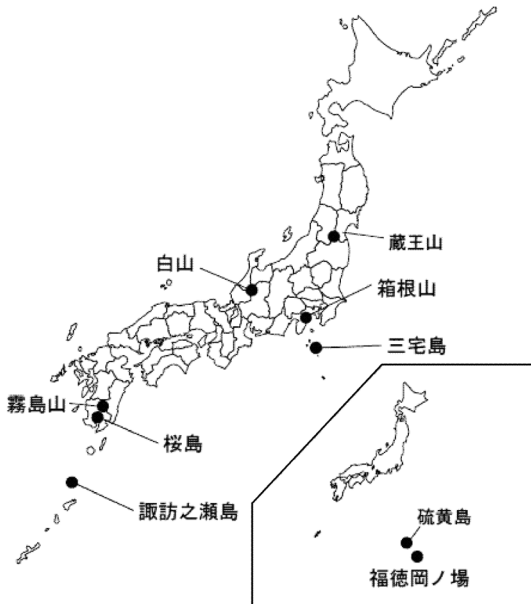


図 1. 2013年1月～2月に目立った活動があった火山

## 蔵王山 (38° 08′ 37″ N, 140° 26′ 24″ E)

地震活動や微動活動は低調に経過したが、1月22日09時台と1月27日の09時台を中心に、蔵王山付近のやや深い場所が震源と推定される低周波地震や火山性微動が発生した。1月の火山性地震の月回数は9回、火山性微動は2回であった。低周波地震の増加や火山性微動が発生した時間帯で、遠望観測等に特段の変化は観測されなかった。

## 白山 (36° 09′ 18″ N, 136° 46′ 17″ E)

1月31日20時42分頃に白山北側で深さ約3kmを震源とするマグニチュード(M)3.3の地震が発生し、岐阜県高山市と岐阜県飛騨市で震度1を観測した。この地震の後に、地震活動が一時的に増加したが、22時頃より徐々に減少した。また、2月1日15時19分頃に、前日(1月31日)と同様の白山北側で深さ約3kmを震源とするM3.4の地震が発生し、石川県白山市、富山県南砺市、岐阜県高山市、白川村、飛騨市、福井県大野市で震度1を観測した。その後、地震活動が一時的に増加したが、

同日17時頃より徐々に減少した。低周波地震や火山性微動は観測されなかった。

白峰(白山山頂の西約12km)に設置してある遠望カメラによる観測では、山頂部に噴気は認められなかった。

白山では、これまでも浅部を震源とする地震が一時的に多発することがあり、最近では、2012年10月27日21頃から28日02時頃にかけて同様の現象が発生した。また、2005年10月3日には、石川県白山市白峰で震度2を観測する地震(M4.5)が発生し、その後地震活動が一時的に活発化したことがある。

一時的な地震の増加がみられたが、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなかった。

## 箱根山 (35° 14′ 00″ N, 139° 01′ 15″ E)

1月11日頃から、駒ヶ岳付近の浅い所を震源とする地震が増加した。2月10日には日回数42回、2月16日には47回を観測した。地震の規模の最大は2月10日13時15分に発生したM2.1で、震度1以上を観測する地震はなかった。地震活動は、消長を繰り返しながら継続したが、2月18日以降は地震が少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

気象庁の体積ひずみ計や、気象庁及び神奈川県温泉地学研究所の傾斜計による地殻変動観測では、山体の膨張を示すわずかな変化がみられたが、2月中旬頃頃から鈍化する傾向がみられている。国土地理院の地殻変動観測結果では、2012年末頃から、箱根山周辺の一部の基線にわずかな伸びの傾向がみられている。

箱根山では、2001年6月から10月にかけて地震が多発し、国土地理院等の地殻変動観測結果でも山体の膨張を示す変化がみられ、噴気活動が活発化した。現時点では、観測されている地殻変動は小さく、噴煙等の状況に特段の変化はみられず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

## 三宅島 (34° 05′ 37″ N, 139° 31′ 34″ E)

1月22日16時38分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生した。噴火に伴い、白色の噴煙が火口縁上200mまで上がり、南東方向へ流れた。また、ほぼ同時刻に、地震計や空振計で、振幅のやや大きな低周波地震と弱い空振を観測した。この地震で、三宅村神着と三宅村役場臨時庁舎で震度1を観測した。噴火の発生した16時台に、火山性地震が一時的に増加したが、その後は減少し

た。地殻変動などその他の観測データには特段の変化はみられなかった。同日夕方に行った現地調査では、島の東側（山頂火口から約3km）で、ごく少量の降灰を確認した。三宅島で噴火が発生したのは2010年7月21日のごく小規模な噴火以来である。

2月20日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測によると、赤外熱映像装置による地表面温度分布観測では、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、前回（2010年1月）と比べてその状況に特段の変化は認められなかった。

噴煙高度は火口縁上100~300mで経過した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中3回実施）では、二酸化硫黄放出量は1日あたり200~500トン（前期間：400~600トン）と、やや少量の火山ガス放出が続いた。三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓でまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測された。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない~やや多い状態が続いており、火山性微動は少ない状態で経過した。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS連続観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続した。一方、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられている。

#### 硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))

島西部の旧噴火口（通称：ミリオングラールホール）で、2月17日から18日にかけて小規模な水蒸気爆発が発生したと推測される。硫黄島の海上自衛隊により、18日に旧噴火口周辺で最大直径約40cmの石の散乱が確認され、19日に実施した上空からの観測で、噴出物が火口から主に西方向へ約150m飛散しているのが確認された。水蒸気爆発が発生した詳細な日時は不明だが、17日午前中に噴出物は確認されていないこと、17日21時30分と、18日00時10分にそれぞれ継続時間が1時間を超える火山性微動が発生していることから、この時間帯に発生したと推測される。旧噴火口では、2012年2月上旬から水蒸気爆発がたびたび発生しているが、今回の噴火はこれの中で最大のものと推測される。

その他の期間は、火山性地震の一時的な増加や火山性微動の発生が時々みられたが、地震活動は概ね静穏に経過した。

国土地理院の地殻変動観測では、2013年1月頃から、わずかに隆起の傾向がみられる。また、2月17日から

18日にかけての活動に関連するような変化は認められなかった。

#### 福徳岡ノ場 (24° 17' 05" N, 141° 28' 52" E)

1月22日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる乳白色の変色水が確認された。また、1月23日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、同海域に幅約100m、長さ約400mの青白色から薄緑褐色の変色水を確認した。これまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

#### 霧島山 (新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))

新燃岳では、今期間、噴火の発生はなかった。白色の噴煙が火口縁上200m以下で経過した。

火山性地震の月回数は1月が31回、2月が25回と少ない状態で経過した。火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は2011年12月以降鈍化・停滞している。「えびの」-「牧園」, 「牧園」-「都城2」の基線で、2012年5月頃からわずかに縮みの傾向が見られていたが、同年9月頃から停滞している。

2月13日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施した。前回（2012年11月8日）の観測と比較して、火口内に蓄積された溶岩の形状や火口内の噴気の状況に変化は認められなかった。火口内に蓄積された溶岩の北側から東側及び南側に複数の噴気孔がみられ、火口内にとどまる程度のごく少量の白色の噴煙が主に北側と東側から上がっていた。また、溶岩には複数の水たまりを確認した。赤外熱映像装置による観測では、噴気がみられる部分や火口内に蓄積された溶岩の縁辺部（特に南側）が比較的高温であった。西側斜面の割れ目では、噴気は確認できなかったが、赤外熱映像装置による観測では、前回の調査と同様にやや温度の高い部分が認められた。

#### 桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は1月が124回（そのうち爆発的噴火は96回）、2月は132回（そのうち爆発的噴火は119回）であった。大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300m~1,800m）まで達する爆発的噴火が、1月に3回、2月に5回発生した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を

時々観測した。

南岳山頂火口では、1月にごく小規模な噴火が時々発生したが、2月には噴火は発生しなかった。

火山性地震は、概ね少ない状態で経過した。噴火に伴う火山性微動が発生した。

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測を期間中6回実施した。二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり800~4,100トンとやや多い~非常に多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年8月頃から山体が沈降する傾向がみられたが、2013年1月頃から停滞し、2月頃から隆起の傾向となっている。

GPS連続観測では、2012年10月頃から桜島島内のわずかな縮みの傾向がみられたが、2013年1月頃から鈍化している。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県のデータをもとに解析した降灰量は、2012年12月は50万トンで、2013年1月は40万トンであった。2012年1月から12月までの総降灰量は660万トンで(2011年の年間総降灰量は450万トン)、昭和火口の噴火再開(2006年)以降最も多かった。

1月29、30日に実施した現地観測では、火口の形状に大きな変化はなく、夜間に肉眼で明瞭に見える火映を確認した。

2月13日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、昭和火口から

は灰白色の噴煙が南岳山頂火口からは白色の噴煙が南へ流れていた。火口内は噴煙のため詳細は不明だったが、赤外熱映像装置による観測では、昭和火口内の噴煙の放出部分が周囲より高温となっていた。

#### 諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、2月3日にごく小規模な噴火が発生した。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は、諏訪之瀬島周辺を震源とするA型地震が2月19日から24日にかけて一時的に増加した。2月19日19時21分に発生したM3.6の地震では、十島村諏訪之瀬島で震度3を観測した。そのほか震度1以上を観測した地震が10回発生した。2月25日以降は少ない状態で経過した。この地震活動に伴って、表面現象や傾斜計に特段の変化はなかった。

御岳火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過した。2012年9月28日以降、火山性微動がほぼ連続して発生している。火山性微動の継続時間の月合計は1月が744時間で、2月が672時間であった。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

(文責: 気象庁地震火山部火山課 長岡 優)

### 日本の火山活動概況 (2013年3月~4月)

気象庁

#### 択捉焼山 (45° 00' 43" N, 147° 52' 16" E)

3月29日に気象衛星画像で海拔約2,000mの高さの噴煙が観測された。択捉焼山で噴火が発生した可能性がある。

#### 蔵王山 (38° 08' 37" N, 140° 26' 24" E)

4月7日、9日及び21日に振幅の小さな火山性微動を各1回観測した。火山性微動を観測したのは、2013年1月27日以来である。また、4月5日や21日を中心に低周波地震が一時的に連続して発生し、火山性地震の月回数は46回で、やや多い状況となった。

4月7日と21日の火山性微動の発生直前に、坊平観測

点(山頂の南西約5km)の傾斜計のデータにわずかな変化がみられた。

火山性微動が発生した前後を含む今期間、空振計及び表面現象に変化は認められなかった。

#### 三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

三宅島の西方沖約10kmで、4月17日10時過ぎから地震活動が活発化した。同日17時57分に三宅島西方沖でマグニチュード6.2(暫定値)の地震が発生し、最大震度5強を三宅村で観測した。最大震度が1以上の地震の発生回数は53回であった。西方沖の地震活動は、その後次第に低下している。この地震の前後で、地殻変動に特段の変化はなかった。

三宅島島内の火山性地震は概ね少ない状態で経過し



図 1. 2013 年 3 月～4 月に目立った活動があった火山

た。火山性微動は観測されなかった。

噴煙高度は火口縁上 100～200m で経過した。

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中 2 回実施)では、二酸化硫黄放出量は 1 日あたり 300～400 トン(前期間: 200～500 トン)と、やや少量～やや多量の火山ガス放出が続いた。三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測された。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS 連続観測では、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続した。島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられている。

**硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))**

島西部の旧噴火口(通称: ミリオンダラーホール)で、3 月 6 日に新たな陥没孔が確認された。3 月 5 日から 6 日にかけて、振幅のやや大きい火山性地震が幾つか発生したことから、この間に陥没を伴いながらごく小規模な水蒸気爆発が発生したと推定される。また、4 月 11 日にも小規模な水蒸気爆発が発生した。旧噴火口では、2012 年 2 月上旬から水蒸気爆発が度々発生している。

国土地理院の観測によると、2013 年 1 月頃からわずかに隆起の傾向がみられていたが、4 月からほぼ停滞して

いる。

**福徳岡ノ場 (24° 17' 05" N, 141° 28' 52" E)**

3 月 8 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に半径約 500m 程度の乳白色及び青色の変色水域が確認された。同月 26 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、幅約 500m、長さ約 1,500m 程度の帯状の乳白色、薄青色、薄緑色の変色水が確認された。また、4 月 10 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、半径約 630m の緑色の変色水が確認された。同月 21 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、直径約 100m の乳白色の変色水が確認された。なお、付近の海域と変色水域に温度変化は認められず、同海域に浮遊物も認められなかった。これまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

**霧島山(新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))**

新燃岳では、今期間噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上 50m 以下で経過した。

3 月 6 日と 12 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄は検出されなかった(前回 2 月 7 日: 検出なし)。

火山性地震は、振幅の小さなものが一時的に増加し、月回数は 3 月が 263 回、4 月が 112 回であった。火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は 2011 年 12 月以降鈍化・停滞している。一部の基線で、2012 年 5 月頃からわずかに縮みの傾向が見られていたが、同年 9 月頃から停滞している。

**桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))**

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、3 月が 74 回(そのうち爆発的噴火は 61 回)、4 月が 17 回(そのうち爆発的噴火は 14 回)であった。大きな噴石が 3 合目(昭和火口から 1,300m～1,800m)まで達する爆発的噴火が、3 月 11 日と 4 月 2 日に発生した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、今期間噴火は発生しなかった。

火山性地震は、少ない状態で経過した。噴火に伴う火山性微動が発生した。

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測を期間中 4 回実施した。二酸化硫黄の平均放出量は 1 日あたり 1,600～2,800 トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年8月頃から山体が沈降する傾向がみられたが、2013年1月頃から停滞し、2月頃から隆起の傾向となっている。

GPS連続観測では、2012年10月頃から桜島島内のわずかな縮みの傾向がみられたが、2013年1月頃から鈍化している。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張は2012年11月頃から停滞しているようにみえるが、一部の基線ではわずかながら伸びの傾向が続いている。

鹿児島県のデータをもとに解析した降灰量は、2013年2月は80万トンで、3月は60万トンであった。

### 諏訪之瀬島(29°38'18"N, 129°42'50"E(御岳))

御岳火口では、今期間爆発的噴火は発生しなかったが、4月13日にごく小規模な噴火が発生し、噴煙が火口縁上700mまで上がった。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

御岳火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過した。2012年9月28日以降、火山性微動がほぼ連続して発生している。火山性微動の継続時間の月合計は、3月が744時間(全期間)、4月が677時間50分であった。

(お知らせ)最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

(文責:気象庁地震火山部火山課 長岡 優)

### ○人事公募

【京都大学大学院理学研究科 附属地球熱学研究施設】

職 種: 研究員(研究機関)(時間雇用教職員)

募集人員: 1名

勤務場所: 附属地球熱学研究施設(大分県別府市)又は火山研究センター(熊本県阿蘇郡)

応募資格: 着任の時点で、博士学位を有すること。

研究分野: 本施設の研究者と協力して、施設が行っている研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する意欲的な方を歓迎する。

現在、本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP等(<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>)を参照のこと。

なお、応募にあたっては、本施設の教員と

必ず事前に連絡を取り、研究計画について相談すること。

適任者が見出せない場合は、施設長(kagiyama\*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp)と相談すること。(※を@に変えてください)

着任時期: 平成25年6月1日以降できるだけ早い時期  
任 期: 平成25年6月1日~平成26年3月31日まで  
※以後、更新する場合あり(最大通算3年まで)  
勤務形態: 週19時間勤務

※土・日曜、祝日、年末年始、創立記念日および夏季休業日を除く

※本学基準に基づき年次休暇を付与 ※必要に応じて超過勤務を命じる場合が有ります。

給与・手当等: 時間給3,900円 本学支給基準に基づき、通勤手当および超過勤務手当を支給(その他の手当、賞与、退職手当は支給しません)

社会保険: 労災保険に加入

応募方法および必要書類:

1. 履歴書 氏名、生年月日、住所、連絡先(電話およびE-Mailも記載) 学歴(高校入学以降の入学年月日、卒業年月日)、職歴、資格、賞罰、学会賞など
2. 業績目録 査読論文、査読なし論文、学会発表など <博士号(題目、取得大学、時期も記載)>
3. 研究の概要および今後の研究の抱負(各A4、1枚程度)
4. 主要論文3編以内

応募方法: 上記書類をPDFファイル(1, 2, 3は同一ファイル)で下記応募先に送付すること。

E-Mail: kagiyama\*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp

(※を@に変えてください)

応募締め切り: 平成25年4月10日(水曜日)必着

問合せ先: 〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽5280  
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター 鍵山恒臣  
電話 0967-67-0022(阿蘇)

075-753-3938(京都分室)

E-Mail: kagiyama\*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp (※を@に変えてください)

その他: 提出していただいた書類は、採用審査にのみ使用します。正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。なお、応募書類はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月7日送信しました)

【九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター】

募集人員：1名

研究分野：地震および火山の観測研究。地震火山現象に興味を持ち、当センターの研究者と協力して、観測と研究に積極的に取り組める方。なお、応募にあたっては、当センターの教員と事前に連絡を取り、研究計画について相談することが望ましい。

応募資格：着任の時点で、博士の学位を有すること。平成25年4月1日時点で満35歳未満であること。

勤務地：地震火山観測研究センター（長崎県島原市）

着任時期：平成25年4月1日以降の出来る限り早い時期

採用予定期間：原則として平成27年3月31日まで（2年間）

待遇等：(1) 身分：非常勤研究員

(2) 給与：九州大学の給与規程による

応募書類：1. 履歴書（氏名、生年月日、住所、連絡先、高校入学以降の学歴、学位、職歴、資格、賞罰など）

2. 業績リスト（論文は査読の有無で分類、学会発表など）

3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各A4、1枚程度）

4. 主要論文3編以内（コピーも可）

応募締切：平成25年3月17日（日）必着 PDF ファイルによる送付も可（ただし、ファイル容量が大きくなる場合は、要事前相談）

応募書類送付先（問合せ先も同じ）：

〒855-0843 長崎県島原市新山2丁目5643-29  
九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター

清水 洋

（電話：0957-62-6621 /

e-mail：hshimizu@kyudai.jp）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月8日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：助教（任期付）1名

2. 所属：高エネルギー素粒子地球物理学研究センター

3. 研究分野：デバイス開発分野

ミューオンやニュートリノなど宇宙線に含まれる高エネルギー素粒子を用いて、火山・断層・地球全体などの透視を行い、それらの密度構造や組成などを高精度に決定する研究。特に、そのデバイス開発を

推進する。採用後は本学教員と協力して、大学院教育にも携わる事が期待される。

4. 採用予定時期：決定後できるだけ早い時期

5. 応募資格：着任時に博士の学位を有する者（学位取得見込者を含む）

6. 任期：3年（このポストでの再任はありません）

7. 提出書類：【提出書類は返却しません】

(1) 履歴書（市販用紙可）

(2) 研究業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）

(3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）

(4) 研究業績の概要（2000字程度）

(5) 今後の研究計画（2000字程度）

(6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先と e-mail アドレス

8. 応募締切：平成25年4月15日（月）必着

9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所観測開発基盤センター新谷昌人

TEL：03-5841-5821 E-mail：araya@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「デバイス開発助教応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月12日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：准教授1名

2. 所属：火山噴火予知研究センター（予定）

3. 研究分野：火山噴火物理学分野

観測・実験・理論などの様々なアプローチを通じて火山噴火現象を支配する物理過程の解明を行う人材を求める。本研究テーマに関する全国共同研究の企画・立案において主導的役割を果たすことが期待される。なお、大学院教育に携わることも期待されている。

4. 採用予定時期：決定後できるだけ早い時期

5. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）

6. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超えることとなる教員の所属する組織（分野）の職に任期を定め、その職の任期は5年以内とする。再任については本研究所教授会の承認

を得た場合は1回限り可(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない)。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類：【提出書類は返却しません】

- (1) 履歴書(市販用紙可)
- (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること、投稿中の論文も含む。)
- (3) 主要論文の別刷り3編程度(コピー可)
- (4) 研究業績の概要(2000字程度)
- (5) 今後の研究・教育計画(2000字程度)
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名と連絡先とe-mailアドレス

8. 応募締切：平成25年5月29日(水)15:00必着

9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所 海半球観測研究センター 川勝 均

TEL：(03)-5841-5817 E-mail：hitosi@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所 庶務チーム(人事)宛封書を用い、表に「火山噴火物理学 准教授応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月28日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：准教授1名
2. 所属：採用後に決定
3. 研究分野：地球震動解析学分野

地球震動解析学分野は、近年その重要性の認識が高まっている地震脈動や常時自由振動など、海洋・大気・電離層・固体地球にまたがる系(固体流体複合系)の震動現象を解析して、固体地球科学の新たな知見を得ることを目指す分野である。当該分野は、未開拓の領域も多く、新たな解析手法を必要としている。本公募ではこの分野に関わる新解析手法の開発とそれを通じた固体地球科学への応用を幅広く進める人材を募集する。なお、本公募で採用された教員は、大学院教育に関わることも期待されている。

4. 採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有する者(外国で同等含む)
6. 任期について：任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織(分野)の職に5年以内の任期を定める。再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限り可とする(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年

による退職の日を超えることはできない)。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類：【提出書類は返却しません】

- (1) 履歴書(市販用紙可)
- (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること、投稿中の論文も含む。)
- (3) 主要論文の別刷り3編程度(コピー可)
- (4) 研究業績の概要(2000字程度)
- (5) 今後の研究・教育計画(2000字程度)
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名と連絡先とE-mailアドレス

8. 応募締切：平成25年6月3日(月)午後4時午後4時必着

9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所火山噴火予知研究センター武尾実

TEL：(03)5841-5707 E-mail：takeo@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム(人事)宛

封書を用い、表に「地球震動解析学分野准教授応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月4日送信しました)

【北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門】

1. 職種・人員・専攻分野  
自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 准教授1名  
専攻分野：岩石学・火山学分野
2. 応募資格：博士号を取得していること。  
本分野の教員と協力して教育研究をしていただける方。  
全学教育(初年次教育)および地球惑星システム科学関連の学部・大学院教育を担当出来る方。
3. 着任予定時期：2014年4月1日
4. 応募書類  
イ) 履歴書(内外の学会活動、受賞歴、参加しているプロジェクト研究歴、各種研究費受領歴なども記載すること)  
ロ) これまでの研究経過(2,000字程度)  
ハ) 研究業績目録(和文のものは和文で表記すること)  
A. 査読のある原著論文

- B. 査読のない論文、総説など
- C. 著書
- D. 解説、報告などその他の出版物で特に参考になるもの

二) 主な原著論文の別刷 5 篇以内 (複写可)

ホ) 今後の教育・研究の計画・抱負 (2,000 字程度)

へ) 応募者について照会が可能な方 2 名の氏名と連絡先 (電話番号, 電子メールアドレス)

5. 応募締め切り: 2013 年 6 月 28 日 (金) 必着  
封筒の表に「教員公募関係」と朱書きし, 簡易書留または宅配便にて送付すること。

教員公募関係書類は個人情報保護法に基づいて厳正に管理し, 審査終了後には適切に処分します。

6. 備考 選考の過程で面接等を行うことがあります。  
※面接に係る旅費・滞在費は応募者負担となりますのでご了承ください。

北海道大学では男女共同参画基本法が制定されて以来, 男女共同参画社会の実現を目指して, 様々な取り組みを行っています。教員の公募に関しても, その精神に則り教員の選考を行います。

詳しくは以下をご覧ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudosankaku/>)

7. 書類の送付先及び問い合わせ先:  
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目  
北海道大学大学院理学研究院  
地球惑星システム科学分野  
竹下 徹  
電話: 011-706-4636 (dial in) FAX: 011-746-0394  
電子メール: [torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp](mailto:torutake@mail.sci.hokudai.ac.jp)  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 4 日送信しました)

#### 【北海道教育大学教育学部釧路校】

1. 講座等名 教育学部学校カリキュラム開発専攻 (釧路校)  
大学院教育学研究科教科教育専攻理科教育専修
2. 職名及び人員 教授又は准教授 1 名
3. 専門分野 学 部 地学  
大学院 地学
4. 資格・修士以上の学位を有する方, 又はそれと同等の研究業績を有する方  
・大学院修士課程において, 大学院生の研究指導 (又は研究指導補助) ができる方  
・学校教育に貢献できる人材育成に強い熱意を持って取り組む方

5. 年齢 特に問わない。(ただし, 本学における大学教員の定年は 65 歳である)

6. 担当予定授業科目 学部 地学概論 I, 地学概論 II, 地学実験, 地学演習, 地球と生命, 自然科学実習, 自然科学入門, 北海道スタディズ, 基礎講読, 教職実践演習, 初等理科, 倫理・人権, その他関連する科目  
大学院 環境地質学特論, 環境地質学特別演習, 教育実践研究, 課題研究

7. 採用予定年月日 平成 25 年 10 月 1 日

8. 公募締切日 平成 25 年 5 月 31 日 (金) 必着

9. 提出書類

(1) 著書, 学術論文等 (研究業績書に記載した全ての著書, 学術論文等の現物, 抜刷, 又はコピー。但し著書のコピーの場合は奥付けのコピーもつけること) 各 1 部

(2) 上記著書, 学術論文等の中から主要業績 5 点について 400 字程度の概要各 1 部

(3) 経歴書 (北海道教育大学教員選考規則別記様式第 4 号) 1 部

(4) 研究業績書 (同規則別記様式第 5 号) 1 部  
※様式中の「研究業績書」記載上の留意事項を参照して下さい。

(5) 教育上の業績 (同規則別記様式第 6 号) 1 部

(6) 管理運営に関わる貢献 (同規則別記様式第 7 号) 1 部  
※前職及び現職がない方については, 提出不要です。

(7) 社会的活動に関わる貢献 (同規則別記様式第 8 号) 1 部

(8) 学校教育を中心とした教育への深い理解と関心 (同規則別記様式第 9 号) 1 部

(9) 主要担当予定科目の授業計画 (同規則別記様式第 10 号, 「地学概論 I」, 「地学実験」, 「地学演習」, 「環境地質学特論」, 「環境地質学特別演習」の授業計画を提出すること。) 各 1 部

(10) 本学での教育・研究活動についての抱負 1 部  
1000 字から 1500 字程度。A4 判用紙。書式は自由。

(11) 語学力 (英語) に関する質問事項 1 部  
※語学力の参考とします。

(12) 応募者の連絡 (氏名, 電話番号, 携帯電話番号等の連絡先及び E-mail アドレス) を記した書類 1 部  
A4 判用紙。書式は自由。

※本公募については, JREC-IN (研究者人材データベース) (<http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>) にも掲載しております。



様式をダウンロードできない場合は、北海道教育大学事務局総務部人事課人材開発グループへお問い合わせ願います（提出書類の様式を電子メールで送付します）。

#### 10. 応募書類の提出先 提出先及び問い合わせ先

〒085-8580 北海道釧路市城山1丁目15番55号  
北海道教育大学副学長（釧路校担当）今泉博宛  
問い合わせ先

〒085-8580 北海道釧路市城山1丁目15番55号  
北海道教育大学教育学部釧路校学校カリキュラム開発専攻

選考委員会委員長 小原 繁

E-mail obara.shigeru@k.hokkyodai.ac.jp

TEL 0154-44-3330

給与等に関する問合せ先

北海道教育大学事務局総務部人事課人材開発グループ  
TEL 011-778-0215,0216

E-mail s-jinzai@j.hokkyodai.ac.jp

#### 11. その他

- (1) 提出書類は「書留」とし、表に「教員公募（地学）関係書類在中」と朱書きしてください。
- (2) 選考結果については、副学長から直接本人宛にご連絡いたします。
- (3) 提出された著書、学術論文等は審査終了後返却いたします。
- (4) 候補者の面接は北海道教育大学釧路校で6月中旬をめぐりに行います。  
その際の旅費等は支給されませんので、あらかじめご了承ください。  
また、採用候補者として選考された応募者については、別途、本学役員による面接（札幌市を予定）を実施します。詳細については、後日ご連絡いたします。
- (5) 本学は、男女共同参画に配慮しており、女性の積極的な応募を期待します。
- (6) 地球科学分野を専門とし、岩石学を基盤として野外での地質調査および観察指導ができる方を希望しております。また本学は小学校教員養成課程に重点を置いており、応募者には教員養成および初等理科教育への情熱が要求されます。さらに、現職教員研修や北海道東部の学校現場に出向いての教育実践指導も重視しており、そのような実践活動も求められます。
- (7) 必要に応じて、他のキャンパスの授業を担当することがあります。
- (8) 大学運営の状況の変化等により、主たる勤務地

が変更になる場合があります。

- (9) 提出書類に含まれる個人情報については、選考及び採用以外の目的には使用いたしません。
- (10) 釧路市或いはその近郊に居住いただくことになります  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月11日送信しました)

#### 【東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻】

1. 職名及び募集人員：助教 1名
2. 所 属：東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻 固体地球物理学講座
3. 研究教育内容等：地震学・火山物理学分野の研究を推進する。学部における地球物理学・物理学に関する教育、ならびに大学院における教育と研究指導を担当する。
4. 採用予定時期：2013年10月1日以降の早い時期
5. 応募資格：採用時に博士の学位を有すること
6. 提出書類：（応募書類は返却しません）
  - (1) 履歴書（市販用紙可）
  - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む）
  - (3) 主要論文の別刷り（コピー可）1-3編程度
  - (4) 研究業績の概要（2000字程度）
  - (5) 研究と教育の計画・抱負（2000字程度）
  - (6) 応募者に関して意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先、ならびに応募者との関係
7. 公募締切：2013年6月28日（金）必着
8. 問い合わせ先：東北大学大学院理学研究科  
地球物理学専攻固体地球物理学講座 西村太志  
Tel：(022) 795-6531, Fax：(022) 795-6783  
E-mail：nishi at zisin.gp.tohoku.ac.jp（atを@に読み替えてください）
9. 応募書類提出先：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻長  
岩崎俊樹宛  
※封書の表に「固体地球物理学講座助教応募書類」と朱書きし書留郵便で送付して下さい。
10. そのほか：当講座は、西村太志教授、中原恒准教授、山本希助教と、本公募の助教、藤原広行教授（連携委嘱、防災科学技術研究所）、藤田英輔准教授（連携委嘱、防災科学技術研究所）から構成され、研究・教育活動を行っています。  
詳しくは、ホームページ <http://www.zisin.gp.tohoku.ac.jp> をご覧下さい。

11. 男女共同参画

東北大学は、男女共同参画を積極的に推進し女性教員を支援しています。

詳しくは、<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/2-3-2/4.htm> 及び <http://www.morihime.tohoku.ac.jp/> をご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月13日送信しました)

**【新潟大学教育研究院自然科学系】**

1. 所属：新潟大学教育研究院自然科学系 環境科学系列

2. 担当学部・研究科：理学部 地質科学科  
大学院自然科学研究科 環境科学専攻 地球科学コース

3. 担当予定科目：

学 部：地質科学の専門科目，野外調査を基本とする地質科学の実習科目，地学に関する基礎科目  
大学院：岩圈物質の変遷に関わる地質科学分野の専門科目など

4. 職種・人員：准教授 1名

5. 採用予定日：平成25年10月1日以降のなるべく早い時期

6. 給与：国立大学法人新潟大学職員給与規程による。

7. 職務内容・条件：

- (1) 理学部地質科学科及び大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コースの教育目標と教育内容，伝統を理解し，野外調査を基本とする地質科学の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと。
- (2) 野外実習を含む地学の基礎科目の教育を行うこと。
- (3) 新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること。
- (4) 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている教育プログラムに参画すること。

8. 応募資格：

- (1) 博士の学位を有すること。
- (2) 上記職務内容に関して優れた教育研究業績を有し，地質科学分野の教員と協調して教育研究を担える能力と熱意があること。

9. 応募書類（各1部）：

- (1) 履歴書（写真を貼付し，連絡先の電話番号と電子メールアドレスを明記のこと，書式は自由）
- (2) 著書，学術論文（学位論文，レフェリー付きの原著論文，総説に区分）及びその他の論文（レフェリーなしの原著論文，国際会議発表論文など）を

分けた研究業績のリスト。

それぞれに，著者名，論文名，雑誌名，巻，最初と最後のページ，発表年（西暦）を記載し，Science Citation Index に登録されている雑誌には，リストの番号にマーク（\*）を付けること。

- (3) レフェリー付きの原著論文のうち，代表的なもの10編以内の別刷あるいはコピー。
- (4) これまでの研究と教育についての概要と採用された場合の研究と教育についての抱負を2000字程度にまとめた文書。
- (5) 過去10年間における，科研費等の外部資金の獲得状況（代表者，分担者の区別および課題名を明記すること），特許，受賞，社会的活動状況をまとめた文書。
- (6) 応募者について意見を聞くことのできる方2名の氏名と連絡先（勤務先，電話番号，電子メールアドレス）。

(注) 応募書類の形式は自由です。応募書類は選考以外の目的には使用しません。

応募に関する秘密は厳守します。本公募手続きにより本学が取得した応募者の個人情報，「独立行政法人等の所有する個人情報の保護に関する法律」に基づいて適正に管理します。

また，上記の応募書類は返却しません。

10. 応募の締切：平成25年7月12日（金）必着

11. 選考方法：応募書類による選考を行います。

面接による最終選考を行うことがあります。ただし，旅費は支給しません。

新潟大学では，男女共同参画推進室を設置し，女性研究者支援を推進しています。

女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

(男女共同参画推進室：<http://www.niigata-u.ac.jp/geo/>)

12. 提出書類の送付及び問合せ先：

(1) 送付先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地  
新潟大学自然科学系総務課学系庶務係  
(封筒の表に「教員応募書類（地質科学分野准教授）在中」と朱書きし，簡易書留で送付のこと。)

(2) 問合せ先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地  
新潟大学理学部地質科学科  
教授 豊島剛志 電話 025-262-6199（直通）  
E-mail：ttoyoy@geo.sc.niigata-u.ac.jp

(3) 担当予定学部・研究科の活動内容については，以下のホームページを参考のこと。  
新潟大学理学部地質科学科

<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/index.html>)

新潟大学大学院自然科学研究科

(<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~gsweb/index.html>)

新潟大学地球環境・地球物質研究センター

(<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/~ceems/>)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月18日送信しました)

### 【新潟大学教育研究院自然科学系】

1. 所属：新潟大学教育研究院自然科学系 環境科学系列
2. 担当学部・研究科：大学院自然科学研究科 環境科学専攻 理学部 地質科学科
3. 担当予定科目：
  - 大学院：地球科学演習 など
  - 学部：地質科学科の野外実習・地質調査法 など
4. 職種・人員：助教 1名
5. 採用予定日：平成25年10月1日以降のなるべく早い時期
6. 給与：国立大学法人新潟大学職員給与規程による。
7. 任期：採用時から5年間。再任なし。
8. 職務内容・条件：
  - (1) 大学院自然科学研究科地球科学コース及び理学部地質科学科の教育目標と教育内容、伝統を理解し、野外地質調査を研究手法とする地質科学分野の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと。
  - (2) 新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること。
  - (3) 日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されている教育プログラムに参画すること。
9. 応募資格：
  - (1) 博士の学位を有すること。
  - (2) 野外地質調査に基づく地質図作成の実績があり、野外実習の指導ができること。
10. 応募書類(各1部)：
  - (1) 履歴書(写真付き、連絡先の電話番号と電子メールアドレスを明記のこと、書式は任意)
  - (2) 著書、学術論文(学位論文、レフェリー付きの原著論文、総説に区分)及びその他の論文(レフェリーなしの原著論文、国際会議発表など)に区分した研究業績のリスト。
    - それぞれに、著者名、論文名、雑誌名、巻、最初と最後のページ、発表年(西暦)について記載し、Science Citation Indexに登録されている雑誌には、リストの番号にマーク(\*)を付けること。
  - (3) レフェリー付きの原著論文のうち、代表的なも

の5編以内の別刷あるいはコピー。

- (4) これまでの研究と教育についての概要と採用された場合の研究と教育についての抱負を2000字程度にまとめた文書。
  - (5) 科研費を含む外部資金獲得状況(代表者、分担者を区別し、課題名を明記すること)。
  - (6) 応募者について意見を聞くことのできる方2名の氏名と連絡先(勤務先、電話番号、電子メールアドレス)。
- (注) 応募書類の形式は自由です。応募書類は選考以外の目的には使用しません。
- 応募に関する秘密は厳守します。本公募手続きにより本学が取得した応募者の個人情報、「独立行政法人等の所有する個人情報の保護に関する法律」に基づいて適正に管理します。
- また、上記の応募書類は返却しません。
11. 応募の締切：平成25年7月12日(金)必着
  12. 選考方法：応募書類による選考を行います。
    - 面接による最終選考を行うことがあります。ただし、旅費は支給しません。
    - 新潟大学では、男女共同参画推進室を設置し、女性研究者支援を推進しています。
    - 女性研究者の積極的な応募を歓迎します。
    - (男女共同参画推進室：<http://www.niigata-u.ac.jp/geo/>)
  13. 提出書類の送付及び問合せ先：
    - (1) 送付先
      - 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
      - 新潟大学自然科学系総務課学系庶務係
      - (封筒の表に「教員応募書類(地球科学助教)在中」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。)
    - (2) 問合せ先
      - 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
      - 新潟大学理学部地質科学科 学科長 松岡 篤
      - 電話 025-262-6376(直通)
      - E-mail：[matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp](mailto:matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp)
    - (3) 担当予定学部・研究科の活動内容については、以下のホームページを参考のこと。
      - 新潟大学大学院自然科学研究科
      - (<http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~gsweb/index.html>)
      - 新潟大学理学部地質科学科
      - (<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/index.html>)
      - 新潟大学地球環境・地球物質研究センター
      - (<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp/~ceems/>)
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月18日送信しました)

【名古屋大学大学院環境学研究科】

1. 職名・募集人員：助教（任期なし）・1名
2. 所属：名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター
3. 分野：地震学・火山学

地震火山研究センター（以下センターという）は、地震および火山噴火現象の解明と予測を通じて災害軽減に貢献するため、全国の関連研究組織と連携して観測研究を進めています。本公募では、センターの構成員と協力し、プレート境界の巨大地震、内陸地震や火山活動、およびそれらの相互作用に関する研究などに主体的に貢献できる人材を募集します。また本公募による採用者は、センターの観測等の業務に積極的に関わることが期待されます。

4. 学生指導：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻および同理学部地球惑星科学科における教育・研究指導を担当します。
5. 応募資格：原則として博士の学位を有する者（未取得の場合には平成25年度中に取得見込みであること）。国籍は問わないが日常的な日本語会話ができること。
6. 任用時期：決定後出来るだけ早い時期
7. 提出書類：
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績リスト（論文については査読の有無を区別すること）
  - (3) 現在までの研究の概要（A4用紙2枚以下）
  - (4) 主要論文（3編以内）の別刷りまたはコピー
  - (5) 着任後の研究および教育に対する抱負（A4用紙2枚以下）
8. 締め切り：平成25（2013）年6月28日（金曜日）必着
9. 提出先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-2（510）  
名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター 山岡耕春 宛  
封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、書留または簡易書留にて郵送すること。
10. その他：
  - ① 選考途中で、必要に応じ面接を行う場合があります。
  - ② 研究・教育の力量の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。
  - ③ 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センターの詳細はホームページ（<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/>）を参照してください。

さい。

- ④ 連絡・問い合わせ先  
山岡耕春  
電話：052-789-3046  
電子メール：kyamaoka@seis.nagoya-u.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月18日送信しました）

【九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門】

1. 職種・人員：固体地球惑星科学講座 准教授 1名
2. 専門分野：固体地球物理学（地震学，測地学，地球電磁気学）の手法を用いて地球内部の構造やダイナミクスの研究を行い，かつ，全学・学部・大学院教育に熱意のある方
3. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
4. 提出書類：下記の書類全てを印刷するとともに，CD-RまたはDVD-RにPDFファイルをコピーし同封すること。
  - (1) 履歴書（博士学位取得の時期を明記すること）
  - (2) これまでの研究概要（A4用紙2ページ以内）
  - (3) 研究業績リスト（査読のある英文原著論文，著書，総説に区分）
  - (4) 主要英文原著論文3編の別刷りまたはコピー（研究業績リストに○印を付す）
  - (5) 研究に対する抱負（A4用紙2ページ以内）
  - (6) 教育に対する抱負（A4用紙1ページ程度）
  - (7) 応募者を熟知し，意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先，並びに応募者との関係
5. 公募締切：平成25年8月30日（金）必着
6. 書類送付先および問い合わせ先：  
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1  
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門  
固体地球惑星科学講座 准教授候補者選考委員会  
委員長 金嶋 聡  
Tel：092-642-2678（ダイヤルイン）  
Fax：092-642-2684  
E-mail：kane@geo.kyushu-u.ac.jp
7. その他：
  - (1) 提出書類のうち，(4)以外は全てA4用紙を使用すること。
  - (2) 封筒に「応募書類在中」と朱書し，簡易書留（海外在住の場合は相当する便）で郵送のこと。
  - (3) 提出書類は返却しません。審査後，責任を持って処分します。
  - (4) 選考の最終段階において講演をお願いし，面接を行います。

(5) 男女共同参画社会基本法（平成 11 年法律第 78 号）の精神に則り、教員の選考を行います。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 30 日送信しました）

## ○その他の公募

### 【信州大学山岳科学総合研究所】

#### 1. 賞の趣旨

信州大学山岳科学総合研究所は、山岳科学研究のセンターとなることを目指して設立されました。

山岳科学研究はフィールド・ワークが基本です。多くの若手研究者が「山」のフィールド・ワークに参画する契機となり、フィールド・ワークをやり遂げた達成感を味わうことが出来るようにとの願いを込め、さらには高校生・大学生の山岳地域における調査・研究を奨励することから、「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」を創設しました。

#### 2. 募集対象

・「信州フィールド科学賞」

山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者（2013 年度末で 35 才以下）を対象とします。研究対象や分野は問いません。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I 種：陸域の自然・文化を対象にフィールド・ワークを行っている高校生を対象とします。

II 種：「山」におけるフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学の（過去 3 年間に提出された卒業論文を対象とします。

#### 3. 受賞

・「信州フィールド科学賞」：受賞者は毎年度 1 名とします。信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞 10 万円を贈呈します。

・「信州フィールド科学奨励賞」：受賞者は毎年度 I 種：1 件、II 種：1 名とします。それぞれに、信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞 5 万円を贈呈します。

#### 4. 募集期間 2013 年 4 月 1 日～6 月 28 日

#### 5. 応募方法

応募の書式は山岳科学総合研究所の Web サイト「<http://ims.shinshu-u.ac.jp/>」からダウンロードしてください。

・「信州フィールド科学賞」

自薦を基本とし、応募の際に必要な書類は、山岳地域におけるフィールド・ワークの実績

・今後の展開と「山岳科学」での研究の位置づけな

どを 2000 字程度（A4 用紙で 2 枚以内）にまとめた調書、研究業績調書（口頭発表を含む）及び論文等の別刷です。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I 種（高校生）：応募の際に必要な書類は、活動実績を示す調書、調査活動によって得られた成果をまとめたもの及び所属高校長の推薦書です。

II 種（卒業論文）：応募の際に必要な書類は、「山」におけるフィールド・ワークの実績と卒業論文の要旨を 2000 字程度（A4 用紙で 2 枚以内）にまとめた調書、卒業論文のコピー及び指導教員による推薦書です。

#### 6. 選考方法

応募者のなかから受賞候補者を選考委員会が選考し、山岳科学総合研究所運営委員会の議を経て、山岳科学総合研究所長が受賞者を決定します。

#### 7. 授賞式

授賞式は 2013 年 11 月 30 日（土）に松本市で行い、受賞者の講演及び受賞者の研究分野に関連する内容のシンポジウムを併せて実施します。

#### 8. 応募書類の送付先および問い合わせ先

応募書類は郵送または持参するとともに、電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい。郵送の場合は、2013 年 6 月 28 日（月）必着でお願いします。

信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

電話：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

e-mail：suims@shinshu-u.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 5 日送信しました）

### 【East Asia Geoscience and Environmental Research (EAGER) 賞の募集】

・受賞資格

- (1) 研究の分野は、地球科学・環境科学であること。
- (2) 博士課程の学生あるいはポスドクで、東・東南アジア出身の研究者であること。
- (3) 受賞者は、助成金を受賞後、一定期間の間に博士論文などの最終成果物作成のための経費に当てること。
- (4) GSA のメンバーであること。

・提案書の作成要領

- (1) 研究課題を英語表記、A4 用紙 5 ページ以内で記述する。記載内容は、研究目的、科学に対する重

要性、研究助成金の使途と妥当性、研究実施スケジュールを含むこと。

- (2) 指導教官と学科長の推薦状を添えること。
- (3) 所属機関や他の機関から研究助成を受けている場合は、それらを記載すること。

・提案書提出期限：2013年6月1日

・提案書提出方法：

下記の問い合わせ先に、メールにて、PDF形式の添付ファイルで送付して下さい。

・受賞者発表：2013年9月15日（予定）

・受賞日：2013年CCOP年次総会（2013年10月21日～23日、仙台）開催時

・問い合わせ先：

産業技術総合研究所地質分野研究企画室（担当：大久保泰邦）

intl7-ml@aist.go.jp

Tel：029-861-3846 または Tel/Fax：029-856-4989

1) CCOP (Coordinating Committee for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia, 東・東南アジア地球科学計画調整委員会)の詳細は、<http://www.ccop.or.th/>を参照。

2) EAGER 賞推薦委員会は産業技術総合研究所地質調査総合センターの4名で構成されています。

3) GSA の会費、入会方法については、<http://www.geosociety.org/>を参照。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月11日送信しました)

#### 【海上保安庁】

海底地形名称の提案募集のお知らせ

海上保安庁では、海底調査で明らかになった海底地形に名称を付与し海図や海底地形図などに記載するとともに、学術分野等での利用の便宜を図っており、下記のとおり、新たな海底地形名称の提案を受け付けています。

ご提案いただきました海底地形名称は、年に一度開催される「海底地形の名称に関する検討会」で検討し、決定します。

今年度は、本検討会を平成25年6月26日に開催する予定としておりますので、海底地形名のご提案について、よろしく願いいたします。

#### 1. 提案の方法

地名提案のためには、当該海域の調査データを用いて作成した海底地形図等を含む提案書を作成していただく必要があります。詳細については、以下の問い合わせ先まで、直接にご連絡をお願いします。提

案書の様式等を送付致します。

#### 2. 提案の期限

ご提案は、随時、受け付けております。ただし、提案書提出が、本年度の検討会に間に合わない場合は、来年度の検討となりますのでご了解ください。

#### 3. 「海底地形の名称に関する検討会」について

本検討会は、海底地形の名称を決定する国内唯一の会合です。委員は、学識経験者（地理学、海洋底地球科学の各専門家）、日本地理学会の代表者及び関係機関（産業技術総合研究所、水産庁、東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構、海上保安庁海洋情報部）の代表者から構成されます。

#### 4. 決定した海底地形名称の公表

これまでに決定した海底地形の名称は海上保安庁海洋情報部のホームページで紹介しており、今年度の検討結果も同様に公表することとしております。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/topographic/topographic.htm>

#### 5. 問い合わせ先

本件の問い合わせは、以下をお願いします。

海上保安庁海洋情報部航海情報課

主任海図編集官 今井義隆

電話 03-5500-7159 FAX 03-5500-7161

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月16日送信しました)

#### ○講演会等のお知らせ

##### 【海洋研究開発機構】

『ブルーアース2013』開催について

独立行政法人海洋研究開発機構は、当機構が運航する海洋研究船（「なつしま」「かいよう」「よこすか」「かいれい」「みらい」）及び有人潜水調査船「しんかい6500」等の深海調査システムを活用して得られた研究成果の発表を主目的としたシンポジウム、『ブルーアース2013』を開催いたします。

1. 開催日時：平成25年3月14日（木）10：00～17：40（9：30開場）

平成25年3月15日（金）10：00～17：20（9：30開場）

2. 開催場所：東京海洋大学 品川キャンパス

3. 入場料：無料（事前申込不要）要旨集を会場で配布いたします。

4. ホームページ：<http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/blueearth/2013/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月20日送信しました)

【「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」平成 24 年度成果報告シンポジウム】

日時：平成 25 年 3 月 6 日（水）～8 日（金）

場所：東京大学武田先端知ビル 5F 武田ホール

[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_04\\_16\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_16_j.html)

プログラムは下記 URL にてご覧頂けます。

[http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/nenji/h24\\_SeikaSympProg.pdf](http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/nenji/h24_SeikaSympProg.pdf)

1, 2 日目は口頭及びポスター発表による成果報告、3 日目は次期計画策定に向けた議論が行われる予定です。（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 1 日送信しました）

【GNSS リアルタイムデータの活用による防災・減災を目指したリアルタイム GNSS 解析に関するセミナー】

主催：科研費基礎研究（S）21221007 研究チーム

「海洋ブイを用いた革新的海洋・海底総合防災観測システムの開発」

日時：大阪会場 2013 年 3 月 14 日（木）

東京会場 2013 年 3 月 15 日（金）

両会場ともに 13：30～16：30（受付開始 13：15）

場所：大阪会場 ハービス PLAZA 6F

東京会場 フクラシア品川

定員：大阪会場 30 名、東京会場 50 名

費用：無料

申込み方法：セミナー事務局（[gps\\_gnss-seminar@hitachizosen.co.jp](mailto:gps_gnss-seminar@hitachizosen.co.jp)）まで「セミナー参加希望」のメールを本文なしで送信いただきますと、案内状を返信させていただきます。本状の申込欄にご記入いただき、FAX にて事務局まで送付ください。

プログラム：両会場とも同じプログラムを予定しております。

13：30～13：45 開会・主催者挨拶

高知工業高等専門学校 教授 寺田幸博

13：45～14：30 講演 1 Real-time, Reliable magnitudes for large earthquakes from 1 Hz GPS Precise Point Positioning.

Prof. Tim Wright, University of Leeds, UK

14：30～15：15 講演 2 Early magnitude estimates from first P-wave arrivals - insights and implications.

Dr. Mark Hildyard, University of Leeds, UK

15：30～16：15 講演 3 リアルタイム GNSS 解析が可能にする地震・津波・大気の詳細監視とその減災利用。

Dr. Tetsuya Iwabuchi, GPS Solutions Inc., USA

16：15～16：30 全体質疑・閉会

※講演 1 と 2 は英語での講演となります（通訳はありません）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 6 日送信しました）

【防災シミュレーションセミナー】

2013 年 4 月 25 日（木）開催

井田喜明（アドバンスソフト(株)）

<http://www.advancesoft.jp/event/20130425seminar.html#mail130307>

【開催要項】

テーマ：防災シミュレーションセミナー

主 催：アドバンスソフト株式会社

日 時：2013 年 4 月 25 日（木）

13：30～16：30（開場：13：10）

場 所：トスラブ山王（山王健保会館 2F）

東京都港区赤坂 2-5-6

<http://www.advancesoft.jp/event/20130425seminar.html#kaijou?mail130307>

【プログラム】

13：30～13：40

松原 聖

（アドバンスソフト株式会社 取締役副社長）

主催者あいさつ

13：40～14：05

井田喜明

（アドバンスソフト株式会社）

自然災害シミュレーションの現状と課題

14：05～14：30

菊池愛子

（アドバンスソフト株式会社）

有限要素法を用いた地震動の予測：MPC 断層解析の利点

14：30～14：55

戸田則雄

（アドバンスソフト株式会社）

断層すべりによる地殻変動の解析：プレート間地震への応用事例

14：55～15：05 休憩

15：05～15：30

湊 明彦

（アドバンスソフト株式会社）

3 次元二相流体解析に基づく噴火発生過程のシミュレーション

15：30～16：10

須藤 仁

（一般財団法人 電力中央研究所）

降下火山灰影響評価のための噴煙柱の数値流体解析

16：10～16：30 総合討論

※プログラムは変更となる可能性があります。

**【募集要項】**

定 員：50名（先着順，定員にて締め切りとさせていただきます。お早めにお申し込みください。）

参加費用：無料

**【お申し込み】**

\* お申し込みは下記項目にご記入いただき，以下のアドレスにお送りください。

E-mail：office@advancesoft.jp  
 セミナー参加申し込み：  
 防災シミュレーションセミナー  
 ～2013年4月25日（木）開催～  
 貴社（校）名：

ご所属：  
 役職：  
 ふりがな：  
 ご氏名：  
 〒：  
 住所：  
 TEL：  
 FAX：  
 E-mail：  
 通信欄：

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月4日送信しました）

**【東京大学地震研共同利用研究集会】**

「火山熱水系構成要素としての火口湖の特徴と挙動」のご案内  
 研究集会の詳細については，以下のサイトをご覧ください。

<http://www.sc.u-tokai.ac.jp/ohbalab/ERI-meeting/index.html>

1. 日程

2013年7月26日 研究発表会  
 7月27日 巡検（阿蘇山中岳および地熱地帯）  
 7月28日 研究発表会

（天候により巡検を28日に変える可能性があります。中日の巡検は国際火口湖ワークショップの活動であり，本研究集会には含まれていません。）

2. 開催場所

大津町生涯学習センター（公民館・文化ホール）  
 JR 豊肥本線肥後大津駅から1km程度

3. 参加費

3000円（発表会だけの費用であり，巡検の費用は含まれていません）

4. 要旨の投稿

要旨（英文のみ）は以下のアドレスに，5月7日までに添付ファイルとしてお送りください。

takeshi\_ohba@tokai-u.jp

詳細は，以下のサイトをご覧ください。

<http://www.sc.u-tokai.ac.jp/ohbalab/ERI-meeting/index.html>

5. 問い合わせ先：

東海大学理学部化学科  
 大場 武  
 電話 0463-58-1211  
 FAX 0463-50-2094  
 takeshi\_ohba@tokai-u.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月11日送信しました）

**【福岡大学国際火山噴火史情報研究所】**

日本地質学会西日本支部第164回例会およびシンポジウム

「長岡信治：海から山，火山でのフィールドワーク」

・日 時：2013年6月8日（土）～9日（日）  
 ・会 場：雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）  
 セミナー室

（<http://www.udmh.or.jp/info/01index.html>）

・主 催：日本地質学会西日本支部，福岡大学国際火山噴火史情報研究所

・共 催：長崎県地学会

・参加費：1,000円（一般）/500円（学生）

・重要な日時：

5月17日（金）17時 宿泊および懇親会申し込みのメ切

5月30日（木）12時 一般講演申し込みのメ切

・すべての申し込み・問い合わせ先（福岡大 LOC）：

E-mail ehai1@fukuoka-u.ac.jp（イーハイ・イチ）  
 電話 092-871-6631（内線：6289）  
 ファックス 092-865-6030（事務室）

・プログラム

6月8日（土）

（10：00～ 一般講演1）

12：40 小林哲夫（鹿児島大）：支部長あいさつ

12：50 奥野 充（福岡大）：シンポジウムの趣旨説明

13：00 今泉俊文（東北大）：佐賀平野での活断層調査

13：30 宮内崇裕（千葉大）：火山列島硫黄島の地形地質研究—貝塚先生・長岡信治と歩いた絶海の孤島—

14：00 西山賢一（徳島大）：宮崎平野の段丘とテフラ



14:30 井上 弦 (九州大): 中・南九州でのテフラと土壌  
(休憩)

15:30 柵山徹也 (海洋研究開発機構): 五島や韓国などでのフィールドワーク

16:00 鈴木毅彦 (首都大東京): 長岡さんのテフラ研究

16:30 森脇 広 (鹿児島大): 南九州の沖積やATなどのトピック

17:00 松島義章 (神奈川県) 南九州における海成沖積層の貝化石

17:30 山本信雄 (元・上高地ビジターセンター): 長岡信治と上高地

(討論1)

6月9日(日)

9:30? 小池裕子 (九州大): マダガスカルのエピオルニス調査

10:00 加藤茂弘 (兵庫県博): エチオピアのテフラ研究

10:30 仲谷英夫 (鹿児島大): 長岡さんとのフィールドワーク

11:00 菅沼悠介 (国立極地研): タイ北部, 中新統Chiang Muan 層の古地磁気層序

11:30 前田保夫 (元・山形大): 長岡さんと進めていた「西九州のハイドロアイソスタシー」について

12:00 鳥井真之 (熊本大)・西園幸久・稲倉寛仁 (西日本技術開発)・奥野 充 (福岡大): 長岡さんと議論した「噴火史データベース」とその後の進展

(討論2)

(14:00~16:00 一般講演2)

最新の詳しい情報は, <http://www.acrifis-chai.fukuoka-u.ac.jp/EHI/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月13日送信しました)

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム】

「サマー・サイエンスキャンプ2013」参加者募集

開催日: 2013年7月23日~8月28日の期間中の2泊3日~4泊5日

対象: 高等学校, 中等教育学校後期課程または高等専門学校(1~3学年)

会場: 大学, 公的研究機関, 民間企業等(58会場)

定員: 受け入れ会場ごとに8~40名(計880名)

参加費: 2000円(食費の一部に充当, 自宅と会場間の往

復交通費は自己負担)

応募締切: 2013年6月14日(金)必着

主催: 独立行政法人科学技術振興機構

共催: 受入実施機関

応募方法: Webより募集要項・参加申込書を入手し, 必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/>

スマートフォンサイト: <http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/sp/>

応募・問い合わせ先: サイエンスキャンプ本部事務局

(公財) 日本科学技術振興財団振興事業部内

TEL: 03-3212-2454 FAX: 03-3212-0014

E-mail: [camp-boshu25@jsf.or.jp](mailto:camp-boshu25@jsf.or.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月16日送信しました)

【火山碎屑性堆積物ワークショップ】

<https://sites.google.com/site/shortcourseniigata/>

日程: 2013年7月29日(月)~8月3日(土)

場所: 新潟大学理学部大会議室

主催: 火山碎屑性堆積物ワークショップ実行委員会

共催: 新潟大学理学部/災害・復興科学研究所/教育学部

ドイツキール大学ハンス-ウルリッヒ・シュミンケ名誉教授と隅田まり博士をお招きして火山碎屑性堆積物ワークショップ(Pyroclastic Rock Workshop)を2013年7月29日~8月3日に新潟大学理学部で開催します。7月29日に公開学術講演会を行います(詳細後日)。7月30日~8月3日のショートコースでは, シュミンケ博士らが世界各地の火山フィールドで採取した堆積物や岩石の薄片の顕微鏡観察や参加者全員での議論によって, 火山-マグマシステムの理解を深めていきます。対象は英語によるコミュニケーションのできる博士課程の学生, ポスドク, 教員, 研究者で, 定員は20名です。登録方法は上記URLをご覧ください。

Pyroclastic Rock Workshop @Niigata University, Japan, July-August, 2013

<https://sites.google.com/site/shortcourseniigata/>

A short course based on microscopic study of pyroclastic rocks will be held in English by Dr. Hans-Ulrich Schmincke, Emeritus Professor of Kiel University (Germany), and Dr. Mari Sumita from July 30-August 3, 2013 at Niigata University following their special lectures on July 29. Major types of pyroclastic and hydroclastic rocks will be studied microscopically, accompanied by lectures and full discussions focussing on the formation of pyroclastic rocks and volcano-

magma-systems in general. A basic knowledge in mineral optics and petrography is required. Expected participants are Ph.D. student who can perform communication in English, post-doctoral researcher, professor and researcher. The total number of participants is limited to 20-person.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月16日送信しました)

○ IAVCEI2013 関係

【IAVCEI 2013 学術総会募金活動にご協力！】

会員各位

IAVCEI 2013 Scientific Assembly の開催まで3ヶ月となりました。講演申込み数は1,300を超え、1,000名以上の参加が見込まれる大規模な学術総会となります。実行委員会では、主に途上国の研究者や若手研究者に大勢参加していただくための経費を賄うために、関連する企業・団体および会員各位(「火山」57巻2号参照)に寄付をお願いしているところです。しかし、3月末までの寄付金は、目標額(1,500万円)の約55%です。まだご寄附の手続きをされていない会員の皆様に再度ご協力をお願いをいたしたくご連絡申し上げます。ご寄附の手続きは、

1. 57巻2号に挟み込みました寄付申込書(黄色)に必要事項を記入の上、日本学術振興会へ郵送。

送付先 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1 麹町ビジネスセンター10階

独立行政法人日本学術振興会

(旧住所 〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地(一番町FSビル)でも届きます)

2. 寄付申込書に記入した振込予定日までに下記の銀行口座に振り込み。

(寄付申込書送付後に、日本学術振興会から振り込み依頼書や振込用紙などは届きません)

振込先 三井住友銀行東京公務部(普通)0169724  
 名義「独立行政法人日本学術振興会国際火山学地球内部化学協会総会」

ドク)ニホンガクジュツシンコウカイコクサイカザンガクチキウナイブカガクキョウカイソウカイ

3. 送金後に独立行政法人日本学術振興会から領収書が届きます。

寄付申込書が見当たらない方は、学会事務局へご連絡いただければ、郵送いたします。

よろしく願いいたします。

日本火山学会 会長 宇都浩三

(IAVCEI 2013 Scientific Assembly 実行委員長)

同実行委員会、募金委員長 平林順一

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月11

日送信しました)

【IAVCEI-related workshopのお知らせ】

皆様

7月に鹿児島市に開催される IAVCEI2013 に先立ちまして、7月19日に IAVCEI と同じ宝山ホールにて“New methods/computer codes for volcano monitoring”というワークショップを開催します。火山観測データを処理するのに有用な計算ツールを紹介(午前中)と実際に動かしてみるセッション(午後)の二部構成です。

興味のある方は、準備の都合がありますので、5月1日までに青木(yaoki@eri.u-tokyo.ac.jp)までお知らせください。

IAVCEI 2013-related Workshop: New methods/computer codes for volcano monitoring

This is a reminder that just before the IAVCEI meeting in Kagoshima we are holding a parallel workshop on Friday 19 July 2013 in Kagoshima.

This workshop is not on the official workshop list, but it complements session 2-3 “Stress, strain and mass changes at active volcanoes”.

The workshop will be focused on teaching new methods for calculating parameters that are useful in volcano monitoring. The workshops will consist of session with people describing the techniques and later sessions for hands-on learning. Sample data sets will be provided for each of the methods and will be discussed at the workshop. The topics below will be offered.

Program is:

- MFAST shear-wave splitting package and associate TESSA tomography package: Presenters Martha Savage, Jessica Johnson and Ernestynne Walsh (MFAST is written with free publicly available software; TESSA requires MATLAB)
- Methodology and programs for using background seismic noise to monitor changes in surface wave velocity with time. The package called MSNoise (Monitoring using Seismic Noise) will be used and is written in Python (no Matlab needed). Presenters Florent Brenguier and Thomas Lecocq, from the Royal Observatory of Belgium will be presenting it.
- Programs for how to invert GPS data for simple pressure source characteristics using either MATLAB or Python. Presenters: Nico Fournier and/or Flavio Cannavo
- The basics of how to use the PyLith finite element code for the solution of dynamic and quasi-static tectonic

deformation problems.

Presenter: Charles Williams, Adrian Shelley

· Seismic amplitude ratio analysis. Presenter Benoit Taisne.

The workshop is free, but you need to sign up by May 1 with an indication of which sessions you are most interested in attending.

More specific information is on the IAVCEI web page [http://www.iavcei2013.com/related\\_meetings/related\\_meetings.html#W03](http://www.iavcei2013.com/related_meetings/related_meetings.html#W03)

To sign up, please email either of:

Martha Savage ([martha.savage@vuw.ac.nz](mailto:martha.savage@vuw.ac.nz))

Yosuke Aoki ([yaoki@eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:yaoki@eri.u-tokyo.ac.jp))

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月16日送信しました)

**【Call for contributions: JGR Special Section on Stress, strain and mass changes at volcanoes】**

皆様

このたび、我々は“Stress, strain and mass changes at active volcanoes”という表題で Journal of Geophysical Research 誌の special session を企画することにしました。これは IAVCEI の “Stress, strain and mass changes at active volcanoes” セッションから派生したのですが、このセッションにアブストラクトを投稿していない方からの投稿も受け付ける予定です。投稿は8月頃から受け付ける予定ですので、論文を投稿する予定のある方は、ご検討下さい。JGR のホームページにも告知が出る予定です。

青木陽介

Dear colleagues,

The contribution submitted to the IAVCEI2013 2F-session in Kagoshima on “Stress, strain and mass changes at active volcanoes” were very high-standard and we are very much looking forward to what should be a fantastic session.

We have also been in discussion with the editorial board of Journal of Geophysical Research at the AGU. After some very positive feedback, we are now in the process of proposing a JGR special section (i.e. special issue) based on this IAVCEI 2013 session. We believe it would be a great opportunity to publish a single volcanology volume on stress, strain and mass changes, in a high-quality journal.

We would therefore like to invite you to contribute to this JGR special section with a paper. Submitted work can be that presented at the IAVCEI2013 2F session, or other work that may fall into the same research area.

Please note that we will finalise the proposal for special

section once we've built a list of potential papers, and keep you informed on the process.

If you are interested, please send me as soon as convenient:

- A tentative list of authors (or, at least, likely first author et al.,)

- A tentative title. For early-stage work, it can be as vague as “Stress changes and ring-faulting at Mount Doom: insights from coupled seismic and geodetic analyses.”

Note that both can be adjusted at a later stage, hence are by no mean cast in stone.

Key points:

- JGR special section on Stress, strain and mass changes at volcanoes.

Co-edited by Nico Fournier and Yosuke Aoki, along with a JGR editor.

- Tentative opening date for submissions: August 2013. To be part of this special section, papers would have to be accepted within ~1.5 years from the opening date. This implies that this volume is suitable for both “ready to submit” work or research at an earlier stage. The dates and timeline will be finalised once we have a list of potential contributors.

- Online-first papers (i.e., published as soon as accepted), hence rapid turn-around, which is especially important for early-career scientists. Articles will become part of the special section as they get published.

- Online submission through the AGU-JGR portal. Peer-reviewed as for standard JGR articles.

For more information on JGR-Solid Earth, please visit the following website (and links therein): <http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1002/> (ISSN) 2169-9356

We are looking forward to hearing from you and do hope that you contribute to this volume. In the mean while, please do not hesitate to contact me should you have any question.

Kind regards,

Nico Fournier and Yosuke Aoki

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月16日送信しました)

**【IAVCEI2013 早期登録〆切 5月1日】**

火山学会会員各位

IAVCEI Scientific Assembly の早期登録〆切は5月1日12時です。

会員の皆様には、忘れずに登録手続きしていただくようお願いいたします。

IAVCEI2013 実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月22

日送信しました)

【IAVCEI2013 アルバイト募集について】

日本火山学会 会員各位

2013年7月20日～24日に鹿児島市にてIAVCEI2013が開催されます。

本会議運営についてお手伝いいただけるアルバイトの方を以下のとおり募集いたします。

アルバイト対象：学部学生および大学院生

募集人数：40名程度

アルバイト条件：日給10,000円、交通費支給なし

アルバイト時間：7/19～7/24。1日単位での勤務とする  
(なお7/19は半日)

アルバイト内容：配布物封入、会場準備、学会受付、講演会におけるタイムキーパー、照明、マイク係、PC操作、巡検バス案内補助等

(英語によるコミュニケーションができることが望ましい)

アルバイトを希望の方は、以下のフォームに必要事項を記入の上、件名「IAVCEI2013 アルバイト応募」のメールを iavcei2013reg@ech.co.jp までお送りください。

締め切り 5/15 (人数多数の場合は先着順)

件名「IAVCEI2013 アルバイト応募」

- 
1. 名前 (ふりがな)
  2. 所属
  3. 学年
  4. 連絡先電話番号
  5. 連絡先メールアドレス
  6. 英語コミュニケーション能力 (いずれかを選択)  
全く話せない  
挨拶程度であれば可  
抵抗なく話せる
  7. アルバイト希望および可能日  
7/19 (午後のみ)  
7/20  
7/21  
7/22 (巡検バス案内補助)  
7/23  
7/24
- 

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月30日送信しました)

○火山防災委員会

【2013年春季火山防災委員会開催(5/20(月)18:30～)】  
各位

日本地球惑星科学連合2013年大会期間中に、火山防災委員会のシンポジウムを下記のように開催いたしますので、ご参集ください。

日本火山学会火山防災委員会

---

日本火山学会火山防災委員会シンポジウム

テーマ：「大規模噴火への広域火山防災のあり方」

日時：平成25年5月20日(月)18:30～20:30

場所：幕張メッセ国際会議場201A号室

プログラム

1. 「広域避難の実施にあたって専門家に望むこと  
～福島第一原発事故の経験より～」  
下村健一氏(元内閣官房内閣広報官室内閣審議官)
  2. 「内閣府等の広域的な火山防災対策に係る検討会での議論」  
藤井敏嗣氏(噴火予知連会長)
  3. 「火山防災における火山専門家の対応」  
荒牧重雄氏(火山防災委員会世話人)
- 

「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。

また、日本火山学会の会員でなくても、自由に会議に参加できますので、これらの話題に関心のある方にはお知らせください

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月10日送信しました)

○その他のお知らせ

【「火山」58巻1号 目次】

「火山」58巻1号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

特集：桜島火山

1. 総説「Magma Movement from the Deep to Shallow Sakurajima Volcano as Revealed by Geophysical Observations」

著者：Masato IGUCHI

地球物理学的観測に基づいて明らかとなった桜島南岳の爆発的な噴火活動期に至るまでの経過と南岳

爆発期の爆発の特性から、桜島火山のマグマ供給系について総説した。

2. 論説「Temporal Variation for Magmatic Chemistry of the Sakurajima Volcano and Aira Caldera Region, Southern Kyushu, Southwest Japan since 61 ka and Its Implications for the Evolution of Magma Chamber System.」

著者：Masaki TAKAHASHI, Tadashi OTSUKA, Hisashi SAKO, Hiroshi KAWAMATA, Maya YASUI, Tatsuo KANAMARU, Mei OTSUKI, Tetsuo KOBOYASHI, etc. Kazuhiro ISHIHARA and Daisuke MIKI

桜島火山および始良カルデラ地域の 61 ka 以降のマグマ化学組成の時間変化とマグマ溜りシステムについて、噴出物の全岩化学組成に基づいて検討した。始良カルデラ地域では約 3 万年にわたって流紋岩質マグマ溜りが安定だったらしい。26 ka に開始した桜島火山のマグマ溜りシステムは高 Ti-P タイプおよび低 Ti-P タイプのデイサイト質～安山岩質マグマからなる。8 世紀以降の歴史時代噴出物は高 Ti-P タイプで、3 つのサブシステムに細分される。それぞれのシステムは数 100 年から数 1000 年程度持続し、最新のものは 1779 年の安永海底噴火以降に活動を始めたと思われる。

3. 論説「Geochemical and Sr-Nd-Pb Isotopic Constraints on the Origin and Magmatic Evolution of Quaternary Lavas of Sakurajima Volcano, Southern Kyushu Island, Japan」
- 著者：Tomoyuki SHIBATA, Jun SUZUKI, Masako YOSHIKAWA, Tetsuo KOBAYASHI, Daisuke MIKI and Keiji TAKEMURA

桜島火山に産する、福山・小野 (1981) によって区分されたほぼすべての溶岩について、モード組成・主要元素・微量元素、及び、ストロンチウム・ネオジウム・鉛同位体組成を測定しました。これらの結果を用いて、初生マグマは一般的な島弧マグマであること、分化過程で四万十層群の堆積物のような地殻物質の影響を受けたこと、比較的浅所に 2 つのデイサイト組成のマグマ溜りが存在する可能性などを論じました。

4. 論説「Comparative Study of Proximal Eruptive Events in the Large-scale Eruptions of Sakurajima Volcano: An-ei Eruption vs. Taisho Eruption vs. Taisho Eruption」

著者：Maya YASUI, Masaki TAKAHASHI, Jun SHIMADA, Daisuke MIKI and Kazuhiro ISHIHARA

最近の桜島火山の大規模噴火では、山頂をはさんだ両側山腹で割れ目噴火が起きている。ここではプロキシマル火山地質学の観点から安永噴火の地質学的検討を行い、噴火推移や噴火様式

を大正噴火と比較した。安永噴火の北東側の噴火

割れ目は、山頂直下から海岸まで 5 km におよび、山腹斜面に大型の火砕丘、より下方には多数の溶岩流のユニットが認められる。両噴火とも噴火開始後数 10 時間に、降下軽石とともにプリニー式の噴煙柱から割れ目火口近傍へ著しい火砕物降下があったが、継続時間や山腹斜面の傾斜の違いなどにより火砕丘の部分崩壊や火砕成溶岩の流出などの多様性が生じたことを論じた。

5. 論説「An Interpretation on Secular Changes in Deformation Caused by the 1914 Eruption of Sakurajima Volcano」
- 著者：Izumi YOKOYAMA

投稿してから略 2 年、今になっても、筋では余り直すところはないようです。筆者が筆者なりに得た概念に基づいてまとめました。本論説で、筆者自身の長年にわたる宿題の答案を提出したような思いです。貴重な観測結果の解釈ですから、今後とも異論の出ることを期待します。

6. 論説「Parasitic Eruptions on Sakurajima Volcano」

著者：Izumi YOKOYAMA

寄生火山の形成については、2000 年代に入ってから、著名国際学会誌にいろんな奇抜な (?) 説が出ています。本論説もその一つかも知れません。本論説の半分くらいは間違いかも知れません。桜島についても、将来、数 100 年にわたり、観測例が蓄積されれば、別な見方が出ることと思います。

7. 論説「The Inflation-deflation History of Aira Caldera for the Last 120 Years and the Possibility of a Forthcoming Large Eruption at Sakurajima Volcano」

著者：Ken'ichiro YAMASHINA

水準測量データを吟味し、桜島 1914 年噴火に先立つ始良カルデラの膨らみを明らかにすると共に、過去 120 年間にわたる桜島火山の噴火活動と水準測量データの対応や、今後の噴火の可能性について議論しました。

8. 論説「Characteristics of Volcanic Activity at Sakurajima Volcano's Showa Crater During the Period 2006 to 2011」

著者：Masato IGUCHI, Takeshi TAMEGURI, Yusaku OHTA, Sadato UEKI and Shigeru NAKAO

2006 年に噴火活動を再開した桜島の昭和火口の噴火活動は 2009 年以降、爆発回数が急増している。昭和火口における爆発の特性を、長期的地盤変動特性と爆発直前の変動パターンから論じた。

9. 論説「Vertical Ground Deformation Associated with the Volcanic Activity of Sakurajima Volcano, Japan during 1996-2010 as Revealed by Repeated Precise Leveling Surveys」

著者：Keigo YAMAMOTO, Tadaomi SONODA, Tetsuro TAKAYAMA, Nobuo ICHIKAWA, Takahiro OHKURA, Shin YOSHIKAWA, Hiroyuki INOUE, Takeshi MATSUSHIMA, Kazunari UCHIDA, and Manami NAKAMOTO

2007年～2010年に行われた精密水準測量の繰返し観測結果を基に、最近の桜島および始良カルデラ周辺域における地盤上下変動について論じた。地盤隆起が観測され、昭和火口における噴火活動が激化するなか、始良カルデラ地下では依然としてマグマの貯留が進行している事が確認された。始良カルデラの地盤が沈降から隆起に転じた1991年以降に始良カルデラの地下に新たに蓄積されたマグマの量や、地盤隆起量から示唆される桜島火山の次の大規模噴火活動についての潜在的なポテンシャルについても議論した。

10. 論説「Absolute Gravity Variation at Sakurajima Volcano from April

2009 through January 2011 and its Relevance to the Eruptive Activity of Showa Crater」

著者：Shuhei OKUBO, Takahito KAZAMA, Keigo YAMAMOTO, Masato IGUCHI, Yoshiyuki TANAKA, Takayuki SUGANO, Yuichi IMANISHI, Wenke SUN, Mamoru SAKA, Atsushi WATANABE, and Shigeo MATSUMOTO

昭和火口からの活発な噴火活動を続ける桜島火山において、絶対重力連続観測を2009年～2010年にかけて実施した。重力変動と、活動度の指標となる火山灰噴出量、空振の振幅・頻度、及び地盤傾斜との間には、良い対応が認められ、開放系火道内のマグマ頭位の上昇・下降として解釈することができた。

11. 論説「Processes Prior to Outbursts of Vulcanian Eruption at Showa Crater of Sakurajima Volcano」

著者：Akihiko YOKOO, Masato IGUCHI, Takeshi TAMEGURI and Keigo YAMAMOTO

2006年に活動を再開した桜島の昭和火口では、2013年3月現在も、活発な噴火活動が繰り返されています。われわれは2008年、2009年の多項目地球物理学観測データをもとに、昭和火口のブルカノ式噴火発生の一連のプロセスについて考察しました。

12. 論説「Separate quantification of volcanic Gas Fluxes from Showa and Minamidake Craters at Sakurajima Volcano, Japan」

著者：Ryunosuke KAZAHAYA, Toshiya MORI, and Keigo YAMAMOTO

紫外線カメラ装置を用いて、桜島火山の二つの火

口、昭和火口及び南岳火口からの火山性二酸化硫黄放出率の分離定量を行った。噴火活動が活発な昭和火口では放出率の変動が激しく、南岳火口では放出率がほぼ一定であった。

13. 論説「Temporal Variations of the Petrological Features of the Juvenile Materials during 2006 to 2010 from Showa Crater, Sakurajima Volcano, Kyushu, Japan」

著者：Akiko MATSUMOTO, Mitsuhiro NAKAGAWA, Mizuho AMMA-MIYASAKA and Masato IGUCHI

本論では、2006年6月～2010年9月の桜島火山昭和火口噴出物（主に火山灰）の岩石学的特徴を明らかにし、火山活動との関連を検討しました。その結果、(1) 昭和火口噴出物は4期に区分され、その区分が火山活動の変化と調和的であること、(2) 特に2009年9月以降、噴出マグマ中の

苦鉄質マグマの影響が増大するとともに火山活動が活発化しており、苦鉄質マグマが現在の活動を支配している可能性があることがわかりました。このように、噴出物の岩石学的特徴の時間変化を追うことは、噴火活動を理解する上で非常に有益な情報を得ることができるといえます。

14. 論説「Variations of Color and Leachate Contents of Volcanic Ashes from Sakurajima Volcano, Japan」

著者：Isoji MIYAGI, Hiroshi SHINOHARA and Jun'ichi ITOH

近年活発な活動を繰り返す桜島に対し、火山灰の水溶性付着成分量、色、噴火間隔の関係を調べた。その結果、噴火が活発で休止間隔が短いほど、付着成分のS/Cl比と黄色味が低下する傾向を認めた。この事は、火道頂部のマグマが放出されるまでの滞留時間が短いほど、ガス成分の蓄積が少ないためと解釈される。1981～2011年にかけてこれらの変化は、火道頂部のマグマ平均滞留時間の変遷を反映している可能性がある。

15. 論説「Shallow Velocity Structure Beneath the Aira Caldera and Sakurajima Volcano as Inferred from Refraction Analysis of the Seismic Experiment in 2008」

著者：Hiroki MIYAMACHI, Chisato TOMARI, Hiroshi YAKIWARA, Masato IGUCHI et al.

16. 論説「Structure of Northeastern Sakurajima, South Kyushu, Japan, Revealed by Seismic Reflection Survey.」

著者：Tomoki TSUTSUI, Naofumi YAGI, Masato IGUCHI, Takeshi TAMEGURI, Hitoshi MIKADA, Kyosuke ONISHI, Hiroki MIYAMACHI, Takeshi NISHIMURA, Yuichi MORITA, and Atsushi WATANABE

桜島に供給されるマグマはこれまでの説よりもっ

と北寄りのルートをとっているらしい。本論文では桜島火山で得られた深さ約 11 km までの地震波反射構造断面について報告し、これらの反射断面に現れたマグマと関連した構造を議論する。得られた反射断面のうち、北山腹を東西に横切る反射断面には煙突状の反射空白域が認められる。この煙突状の空白域の位置や深度はこれまでに得られた地球物理学的観測結果と一致することからマグマの通り道の可能性が高いと解釈される。一方桜島東麓をほぼ南北に横切る反射断面では先述の断面と共通な深さ 5 km 付近の特徴的な反射面の分布が示された他、反射構造が桜島の南北で異なる様相を呈していることが示された。本研究の成果は桜島の地下構造の解明だけではなく、始良カルデラから桜島に至る地下におけるマグマの動きをさぐるための基礎情報として位置づけられるものである。

17. 論説「Shallow Resistivity Structure of Sakurajima Volcano Revealed by Audio-frequency Magnetotellurics」

著者：Wataru KANDA, Tomoya YAMAZAKI, Yasuo OGAWA, Takeshi HASHIMOTO, Shin'ya SAKANAKA, Koki AIZAWA, Shinichi TAKAKURA, Takao KOYAMA, Kenta YAMADA, Tsukasa KOBAYASHI and Shogo KOMORI

桜島山腹の三測線に沿って AMT 法による地下構造調査を行い、桜島浅部の三次元比抵抗構造を明らかにしました。島内に広く見つかった低比抵抗領域の分布や実体についてボーリングデータなどを参考に議論しました。

18. 論説「Semi-Diurnal Tidal Periodicity Observed by an Ocean Bottom Seismometer Deployed at a Location Very Close to Seafloor Fumaroles in Wakamiko Caldera, Northeast of Sakurajima Volcano.」

著者：Hiroshi YAKIWARA, Shuichiro HIRANO, Hiroki MIYAMACHI, Tetsuro TAKAYAMA, Tomoya YAMAZAKI, Takeshi TAMEGURI and Masato IGUCHI

若尊カルデラの活動的な海底噴気孔の近傍に投入した海底地震計で、地動速度の 2 乗平均振幅の半日周潮的な変化を検出しました。この変化は、起潮力加速度の変化と時間、及び周波数領域で一致すること、及び日潮不等の期間には不明瞭なることを示しました。また、この変化は起潮力加速度変化と厳密には線形関係に無いことを指摘し、その理由について議論しました。

19. 論説「Renovated Ballistic Equation of Ejected Blocks and Its Application to the 1982 and 1983 Sakurajima Eruptions」

著者：Takeo SUZUKI, Yasunori NISHIDA and Kiyooki

NIIDA

火山爆発による放出岩塊の運動について論じる場合、空気抵抗の効果を考慮することが重要で、正しくベクトルとして扱う改良した弾道方程式を提案した。さらに、放出岩塊運動の先行研究で提案されている、大気密度の高度変化、風速場の効果、爆発主軸の効果などを取り入れる方法について論じ、岩塊の初速獲得時におけるサイズ効果の存在をさぐる方法についても論じた。この手法を、初速度が実測されている桜島南岳爆発の岩塊落下地点分布に適用して考察した。

20. 論説「Ellipse-approximated Isopach Maps for Estimating Ashfall Volume at Sakurajima Volcano」

著者：Yasuhisa TAJIMA, Keiji TAMURA, Takao YAMAKOSHI, Akira TSUNE and Shinjiro TSURUMOTO

桜島などの海に囲まれた火山では、観測場所が限られ海上の等層厚線を描くことは困難です。そこで、限られた観測点から火山灰の等層厚線を描き、堆積量を推定する Ellipse-approximated Isopach と称する方法を考案しました。これは等層厚線を、相似の楕円に近似する仮定と、面積と層厚の関係がほぼ 1 乗の指数で近似される関係を用い幾何学的に表現する方法です。この方法によって、軸が定まる場合には 2 点の観測値から火山灰堆積量を算出することが可能となります。計算を行う際の制約も合わせて記述しています。

21. 解説・紹介「AGU Fall Meeting 2012 セッション報告」

著者：中道治久

AGU Fall Meeting 2012 にて、ブルカノ式噴火を様々な手法から多角的にとらえて理解する目的でセッション提案し開催しました。全 21 講演のうち日本国内所属の研究者から 7 講演あり国別で最多でした。

22. 解説・紹介「浅間前掛火山のプロキシマル火山地質学及び巡検案内書—浅間前掛火山黒豆河原周辺の歴史時代噴出物—」

著者：高橋正樹・安井真也

浅間前掛火山の活動史を解説するとともに、マグマ噴出時の火口近傍での諸現象の理解を目指す“プロキシマル火山地質学”の好条件なフィールドとして、山頂火口からの距離が 3 km 程度の山腹斜面で観察される露頭を紹介した。火口近傍の火砕堆積物の産状を記載し、火砕成溶岩、火砕流や流動火砕丘の流動・定置プロセスにも言及した。なお、PDF 版の図や写真はカラーです。

23. 書評「日本地球化学会編「地球と宇宙の化学事典」」

著者：富樫茂子

日本の地球化学の第一線の研究者約 200 人によって執筆された事典の書評です。

「マグマとは何か」といった基本的なことから、「はやぶさ」のようなトピックまでが、各項目 1-2 ページ位で、図なども駆使してまとめられており、読む事典としての魅力があります。

=====  
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 1 日送信しました)

**【連合大会・学会受付設置日のお知らせ】**

5 月 19～24 日に千葉市幕張メッセ国際会議場において開催される  
 日本地球惑星科学連合 2013 年度連合大会におきまし

て、下記の日程で、火山学会ブース（幕張メッセ国際会議場 1F 学協会エリア No. 8）を設置します。

連合大会・学会受付設置日：

- 5 月 19 日（日）（10：00～17：00）
- 20 日（月）（10：00～17：00）
- 21 日（火）（10：00～17：00）
- 22 日（水）（10：00～17：00）
- 23 日（木）（10：00～12：00）

学会誌のバックナンバーの販売のほか、学会入会申込や現金払いによる会費の納入を受けますので、どうぞご利用ください。

なお、大会期間中は、東京・本郷の火山学会事務局はお休みになりますのでご了承願います。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 18 日送信しました)